

# 年度更新情報 【相模原市】

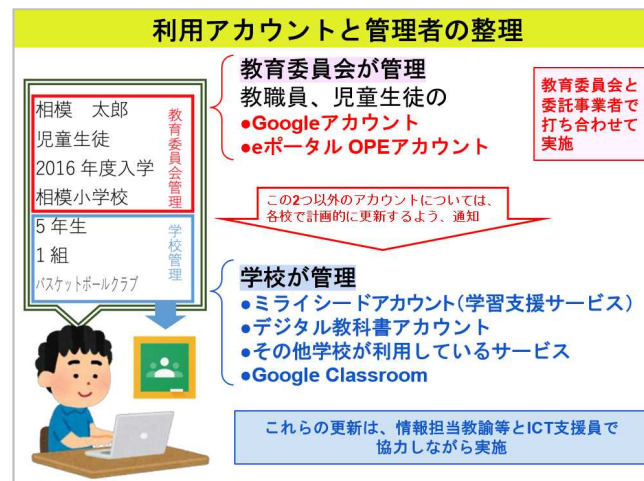
## ○ 資料の概要

相模原市では、アカウント命名規則や利用アカウントと管理者を整理することで、年度更新に係る負担を減らすようにしています。また、アカウント・端末・データそれぞれの更新手順及びスケジュールを整理して示すことで、年度更新が円滑に進むようにしています。

## ○ 資料の目次（全8ページ）

- 1 ページ 相模原市におけるGIGAスクールの取組
- 2 ページ 相模原市のアカウント命名規則
- 3 ページ アカウントを管理する知識・技能
- 4 ページ アカウント運用方針とマニュアル
- 5 ページ 利用アカウントと管理者の整理
- 6 ページ 令和3年度のアカウント更新スケジュール（予定）
- 7 ページ 令和3年度の端末更新スケジュール（予定）
- 8 ページ 児童生徒のデータ更新

利用アカウントと管理者をアカウントごとに、その役割を明確にして示しています。



## ○ 相模原市の担当者から

小学校から中学校への進学時に、システムを活用してアカウント情報を引き継ぎ、さらに中学校入学生の名簿を提出してもらいましたが、進学先を特定できないアカウントがありました。システム引き継ぎの操作ミスや名字の変更によるものでした。対策として、全ての在籍児童の進学先とアカウントデータを提出してもらいました。

教育委員会はアカウントを「教員」と「児童生徒」に分けて発行しました。学校では「学年」「学級」「番号」「その他の属性」を管理するようにしました。更新作業を減らし、教育委員会が管理する情報を少なくすることでアカウント管理が円滑になりました。

## ○ 相模原市の学校数・児童生徒数

小学校	70校	児童数	34,252名
中学校	35校	生徒数	16,789名
義務教育学校	1校		
		前期課程	43名
		後期課程	27名
		(令和3年5月1日現在)	

## さがみはらGIGAスクールハンドブック

- ・アカウント内データの引継ぎについて
- ・年度末のClassroomのアーカイブについて
- ・ユーザー管理に関わる注意点 (p.101～)

[http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kyouikunojouhouka\\_top.html](http://www.sagamihara-kng.ed.jp/kyouikunojouhouka_top.html)

# 相模原市におけるGIGAスクールの取組

## 相模原市

小学校70校 中学校35校 義務教育学校1校  
児童数約34,000人 生徒数約17,000人



### 令和2年度

- 7月に、全児童生徒、教職員へのアカウント配布を実施  
**Google Workspace for Education**
- 学習者用端末と高速インターネット回線を整備
- 9月から順次、学校での活用を開始



### 令和3年度

- 本格的な推進の開始

ここで年度更新を経験

この経験をもとに相模原市の**年度更新**について紹介

# 相模原市のアカウントの命名規則

## Googleアカウントの運用ルール

t\*個別の番号\*@ドメイン名 (教員用アカウント)  
s\*個別の番号\*@ドメイン名 (児童生徒用アカウント)  
+  
パスワード(ランダム)

小→中、卒業の移動以外は、  
更新作業の必要がない



## eポータルOPE<sup>※</sup>アカウント

自分の学校、学年を選択  
ユーザーID  
+  
パスワード(ランダム)

システム上、毎年更新作業が必要

※ OPE: Open Platform for Education  
NECが提供している教育クラウドサービス

全ての児童生徒にアカウントを配布



早急に次のような知識・技能を身に付けさせる

- 自分のユーザーIDを知っている
- 自分のパスワードを知っている
- それらをログイン画面で入力できる
- 自分のユーザーIDを人に使わせない
- 自分のパスワードを人に教えない
- 自分で安全なパスワードを設定できる

※これらの知識・技能は、クラウド・バイ・デフォルト<sup>※</sup>で、コンピュータを活用していく今後の社会で必要不可欠です。

簡易にログインできる、だけでなく、情報セキュリティの側面から、アカウントのルールを決めましょう。

※ クラウド・バイ・デフォルト  
クラウドサービスの利用を第一候補として考える方針のこと3

# アカウント運用方針とマニュアル

さがみはらGIGAスクールハンドブック内「相模原GIGAスクールガイドライン」



## ① 相模原GIGAスクールガイドライン

小中学校等でのGIGAスクール構想に関連するタブレットPC、アカウント、セキュリティなどについて、適切な運用が図られるようガイドライン及び資料を示します。各校は、このガイドラインに従いGIGAスクールを推進してください。

なお、GIGAスクール構想の推進は、児童生徒が家庭においてもコンピュータ等のICTを適切に活用することで、学校の学びを生活とシームレスに結びつけることを最終的な目的の一つとしています。そのため、ICT環境がまだ整っていない家庭において、学習端末を持ち帰らせることの詳細についても、このガイドラインでは定めています。今後、相模原市立小中学校等に通う児童生徒の各家庭における通信環境の状況を確認しながら、この取組についても推進を図っていきます。

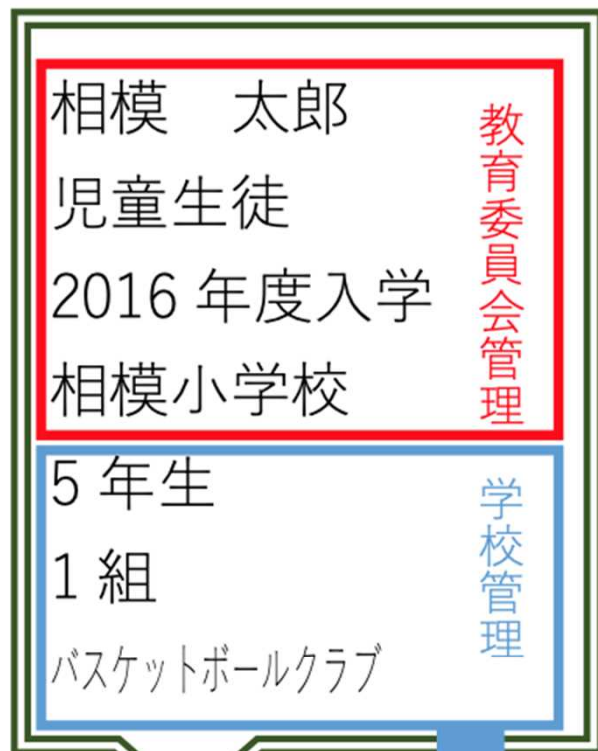
**教育委員会、学校、児童生徒及び各家庭**、の3つの区分ごとに、**学習者用端末の管理、アカウントの管理、端末の情報セキュリティの確保**、について定めている

**【学校側】** 校内の教職員による適切な運用

**【児童生徒及び各家庭】** 様々な方法で周知

- アカウント使用の目的、方針
- 管理するアカウントの範囲
- アカウントの登録、修正、削除に関すること、など

# 利用アカウントと管理者の整理



## 教育委員会が管理 教職員、児童生徒の

- Googleアカウント
- eポータル OPEアカウント

教育委員会と  
委託事業者で  
打ち合わせて  
実施

この2つ以外のアカウントについては、  
各校で計画的に更新するよう、通知

## 学校が管理

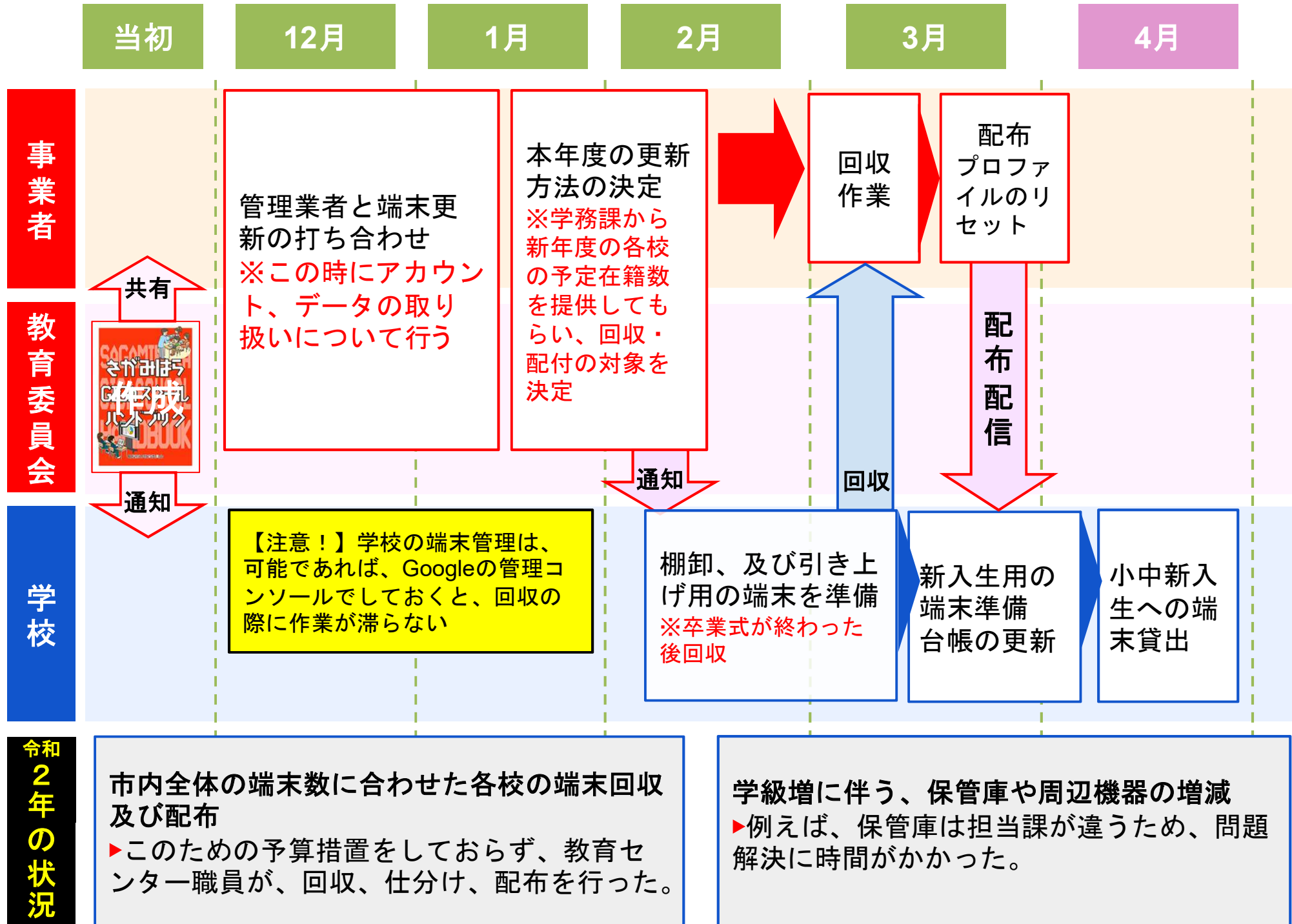
- ミライシードアカウント(学習支援サービス)
- デジタル教科書アカウント
- その他学校が利用しているサービス
- Google Classroom

これらの更新は、情報担当教諭等とICT支援員で  
協力しながら実施





# 令和3年度の端末更新スケジュール(予定)





# 児童生徒のデータ更新

**基本** 小学校1年生から中学校3年生までデータはそのまま引き継がれる

## その他、各場面における留意事項

	場面	☑行うこと
i	年度が始まる時	<ul style="list-style-type: none"><li>□必要なClassroomを作成する。</li><li>□「Classroomの教員」に学校の管理職を招待する。</li><li>□「Classroomの生徒」に児童生徒を招待する。 方法1 授業の際にclassコードを伝える。 方法2 事前にGoogleアカウントを入力して招待する。</li></ul>
ii	年度が終わるとき	<ul style="list-style-type: none"><li>□卒業生にGoogle Workspaceアカウント内のデータ引き継ぎの仕方を案内する。</li><li>□その年度の学級や各教科等の授業用のClassroomを、それぞれ、「生徒のストーリーの書き込みをOFFにする」の設定変更を行った後、アーカイブを行う。</li></ul>
iii	年度途中に児童生徒が転入してきた時	<ul style="list-style-type: none"><li>□転入生のGoogle Workspace及びOPEアカウント取得の申請を所定の方法で行う。</li><li>□「Classroomの教員」が、転入してきた児童生徒をClassroomに招待する。</li></ul>
iv	年度途中に児童生徒の転出者が出た時	<ul style="list-style-type: none"><li>□転出生のGoogle Workspace及びOPEアカウント削除の申請を所定の方法で行う。</li><li>□転出生にGoogle Workspaceアカウント内のデータ引き継ぎの仕方を案内する。</li><li>□「Classroomの教員」が、転出した児童生徒をClassroomから削除する。 (学級だけでなく、各教科等、委員会、部活動などのClassroomにも留意)</li></ul>

※この他、教職員のデータ引き継ぎの留意事項もあります。

※学習支援のサービスなどは、小中間のデータが引き継げないものもあり、今後の課題になっています。